

氏名	渋谷 貢 一		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	乙 第577号		
学位授与の日付	昭和48年 9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	線維芽細胞抑制剤による悪性腫瘍の治療に関する研究 第1編 クロロキンの寒天肉芽腫に及ぼす影響 第2編 クロロキンの担腫瘍動物 (Bashford 癌) に及ぼす影響 第3編 クロロキンの担腫瘍動物 (Ehrlich 腹水癌, MH₁₃₄ 腹水肝癌) に及ぼす影響 第4編 クロロキンの人癌に及ぼす影響		
論文審査委員	教授 小坂 淳 夫	教授 大藤 真	教授 小川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

癌組織の間質を構成する線維芽細胞の癌細胞との密接な関連性に注目し、線維芽細胞抑制剤である磷酸クロロキン、その他のキノリン誘導体を癌治療に応用せんがため、基礎的臨床的研究を行い、下記の成績を得た。

第1編では、磷酸クロロキン等4種のクロロキンをラッテ背部皮下に作成した寒天肉芽腫に投与して、その明らから肉芽腫重量の減少と、組織の結合織成分の減少を認めた。

第2編では間質の比較的豊富な結節性腫瘍である Bashford 癌を選んで、磷酸クロロキンを投与し、マウスの延命効果と腫瘍の発育抑制を認めた。

第3編では Ehrlich 腹水癌及びその皮下結節、MH₁₃₄腹水肝癌皮下結節を対象に選んだが、腹水癌腹水中の癌細胞の減少傾向がみられたのみで、結節腫瘍の発育抑制、延命効果共に見られなかった。

第4編では、組織診断の確定した54例の人癌に投与した結果、所謂制癌剤の様に腫瘍の縮小は著明ではないが、自覚症の改善に重点をおいた場合有効例38、無効例15、不明1の成績が得られ、末期癌を除いて一応有効であり、特に肺癌、膀胱癌において優れた効果が示された。組織像では腫瘍の壊死傾向、間質の抑制像が認められ、副作用の軽微なことから相俟って臨床的に充分有用であると考えられる。

論文審査の結果の要旨

著者は線維芽細胞抑制と考えられるクロロキンを寒天肉芽腫,担腫瘍動物(Bashford 癌, Ehrlich 腹水癌, MH₁₃,腹水肝癌)に用い,その作用,確認したのち,人癌の治療に応用し,その効果を確認し,論文としてまとめており,新知見に富み,学術上有益な論文であるとする。

よって医学博士の学位を授与するに価するものと断定した。